

「意味と内容」が  
ひろがる学びの創造

互いのまなざしが  
共鳴することによって

## CONTENTS

本年度を振り返って	1
今年度の研究・成果と反省	2
学習紹介「《言葉・動き・音》で“つくって表現”を！」(5年 音楽科)	3
学習紹介「大すき! 「くじらぐも」」(1年 国語科)	4
学習紹介「マットあそび」(2年 体育科)	5
学習紹介「教材の選び方を考える」(6年 理科)	6
学習紹介「サッカー」(5年 体育科)	7
学習紹介「学校にある形を見つけよう」(3年 算数科)	8

## 本年度を振り返って

和歌山大学教育学部附属小学校 副校長

北島健司



平成17年度も締めくくりの時期を迎えました。

本年度も、附属小学校のあり方や教育について、いろいろな思いや願いが交錯した一年でした。その中で特に心に残る2例を提示させていただきます。

<本年度研究発表会に寄せて>

本年度研究発表会には、土曜日にもかかわらず、また、お足元の悪い中、多数の皆さんにご参会いただき、貴重なご意見ご感想を賜ったことに感謝申し上げます。教職員一同、使命感の再認識とともに授業力向上への刺激をいただきました。「人は人の目によって磨かれる」ということでしょうか。皆様方のたくさんの目の中で、子どもも教職員も自分自身を見つめ直す機会を得ることができました。本校教職員の授業力並びに追究力の伸張に大いに期待しているところです。

<三智の教育を>

今年1月4日、大学院で建築設計を学ぶ本校卒業生が訪ねてきました。彼女は建築物の調査活動において、小学校の頃の学習が大変役立っていると目を輝かせて語ってくれました。彼女の小学校当時、『問い続ける子』をテーマに、各教科の研究が進められていました。究極において、私たちの「ねらい」とするものは、やはり、目の前の知識だけではなく、将来にわたって「生きてはたらく力」を育て上げることであるという実感をもちました。言い換えれば、「学力」もさることながら、「学欲(学習意欲)」を身につけさせることの大切さを思いました。

人の世に三智がある  
学んで得る智  
人と交わって得る智  
みづからの体験によって得る智が  
それである (島崎藤村)

人には、それぞれいろいろな学びがあります。一生  
涯を通じ、自ら主体的に学び取る智です。  
学校教育では、一人一人の学習スタイルを大切に  
した「三智」に富む学校づくり・授業づくりができれば  
と思います。

今後とも、学校視察・授業参観や各教科・領域の指導のあり方についての話し合い等、ご遠慮なくお申し出いただくとともに、附属小学校教育へのより一層のご理解・ご支援をお願いいたします。

## 今年度の研究・成果と反省

### 意味と内容」がひろがる学びの創造

— 互いのまなざしが共鳴することによって —



研究企画長

石本 倫章

本年度は、標記研究主題での2年次の取り組みでした。

私たちは、子どもたちが、今行っている学習に「意味」を感じ、楽しさの中に真剣味のある学習を展開できるように実践・研究をおこなってきました。ここで、再度、本校の研究主題を簡単に整理し、本年度の成果を述べることにします。

#### 意味と内容」がひろがる学びの創造

子どもたちが学習対象に「意味」を感じ、学習対象に価値を見出し、こだわりをもって取り組む中で、その子自身が主体的となり、深化したり、進化したり(ひろげる)していく学習である。

私自身の実践で言えば、子どもが、運動そのものを学ぶことが「意味」だと考え研究してきました。つまり、「相手(チーム)に勝ちたい。」とか「上手になりたい。」という機能的特性が中心的な「意味」なのです。しかし、子どもたちが運動を行う目的はそれにとどまりません。私は、子どもたちが、運動の機能的特性以外の楽しみ方にふれようとするを「意味」のひろがりだと考えました。だから、子ども達をみるときにあそびや生活、そのこどもの性格や友達とのかかわり方までみとろうとしたのです。いつもなら気づかないそのこどもの学習の出方(詳細は、紀要第30集参照のこと)やまわりのこどもとのかかわり方に気づけたのです。私たちは、そのこどもがアイデンティティを培うことの手助けをしています。体育の達人や物語や計算の達人を育てようとしているわけではありません。技能が低い、活動に意欲的で、準備や後片づけを一生懸命にするこどもがいました。そのこどもは、他のこのはげましや助言を得ながら自己のめあてを達成していきました。それ以後、彼女のあそびがかわっていったのです。鉄棒やなわとびなど、今までならほとんど見向きもしなかったことに熱中していく姿を見て、私同様保護者も大きな驚きとうれしさを感じたのでした。これは、めあてを達成する喜びを感じた以上に、仲間と同じあそびをするうれしさへと「意味」をひろげていったからだと考えています。「意味と内容」をひろげるテーマで、職員が意思統一しながらこどものみとりの充実をはかろうとしたことで、こどもによりそって授業をしていくことや単元を構成する力が少しは高まっていったことが今年度の成果と言えます。

今後の課題ですが、研究主題の『「意味と内容」がひろがる学びの創造』もサブテーマの「互いのまなざしが共鳴することによって」もどちらかという概念的で看板だけがはっきりしているというご意見に対し、来年度は方法と尺度を明らかにしていかなければならないと感じています。来年度も、今年度と同じように、研究会だけでなく公開の夏季研を計画しております。たくさんの方が、参加した成果や意義の感じられる研究にしていきたいです。よろしくお願いいたします。

## 平成18年度 教育研究発表会のお知らせ

期日 平成18年10月28日(土) 場所 和歌山大学教育学部附属小学校

記念講演 佐藤 学 先生 (東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長・日本教育学会会長)

“空”をキーワードにして

《言葉・動き・音》から“つくって表現”を！



音楽専科

江田 司

## 5年生教科書には16曲に「空」が登場！

現行の5年生音楽教科書（教育芸術社）には歌唱教材が約30曲ある。そのうち16曲・29箇所歌詞「空」が登場する。標準語のイントネーションでは「そら」と下がる。作曲する場合、このイントネーションに準じて下行音型にするか、同じ音で連打型とするかが定石となる。逆に上行は禁則となる。例外は「メロディが優先されている場合」「標準語でない（例えば関西弁の歌の場合）」などである。

驚くほどたくさん「（大・青など）空」を使った曲が選ばれているのは、「希望・明日・夢・自然」などへと発展的にイメージをしやすい教科書ならではの発想があるからだろう。

**【教科書で「空」が使われている楽曲】** 《Believe》《こいのぼり》《いつでもあの海は》《やさしい風に》《アリラン》《わたり鳥と少年》《静かにねむれ》《それは地球》《スキーの歌》《大空がむかえる朝》《朝日をあびて》《世界がひとつになるまで》《明日に向かって》《大空よ あなたののもとに》《南風にのって》《つばさをだいて》〔教育芸術社5年生音楽〕

## 『曲想』を対比で感じ取る

同じ「空」（歌詞）でも、テンポや調性、音の高さやフレーズでの位置によってずいぶん違った印象を受ける。この辺りに『曲想』を比較して捉えられる勘所がある。また、「空」をキーワードに作詞をしたり、作曲をしたりする活動へも展開できる。16曲を1曲ずつ聴いて、一言ずつ『曲想』について感じたことを書かせ、それらをすべて2~3曲単位の一覧表にまとめて子どもたちに提示した。これがなかなか効果的で、例えば《静かに眠れ》では、テンポの遅さと歌詞内容から長調であるにもかかわらず「暗い！」との意見が、「静かで明るい。ゆっくり」との意見と対立して出された。他の曲《わたり鳥と少年》ではどうなのかの比較を含めて、ここではテンポ設定と歌詞内容が『曲想』を形成するのに大きく作用していることを学んだのである。

## 文節から動機（モチーフ）へ 《言葉・動き・音》で表現

次に「空」を含む12~14文字程度の詞を自作させた。40種類ができた。自由に1つを選ばせ作曲を開始した。今度は「空」をキーワードに、『曲想』そのものをつくって表現したのである。

つくる方法としては、詞を構成する各文節が音楽の動機となることに目をつけた。活動の流れを紹介する。詞を文節に分ける。NHK番組「にほんごであそぼ」の朗読を参考に、各文節を言葉の意味をもとに動作化する。手話的でもよい。その際テンポを決める。2~3種類の動作を記録しておく。手拍子を打ちながら言葉に抑揚を付けていく。友だちや先生の助けを借りて音符化する。

これらの活動の結果、35人の個性豊かな作品が出来上がった。作品の特徴としては、音の流れが文節に対応していること。2~8小節の短い作品であるが変化に富んでいること。抱いているイメージが音の動きとなって訴えかける作品が多いことなどが挙げられる。

**【学習計画 = 全12時間】** 第1次：「しらべる」〔1h〕学習内容：歌詞「空」を手がかりにして『曲想』を調べる。第2次：「くらべる」〔3h〕学習内容：調べた『曲想』16曲それぞれを一覧表にして比較検討整理する。第3次：「つくる」〔5h〕学習内容：「空」を含む12~14文字程度の自作詞に作曲する（自作詞及び作曲作品は一覧表にする）。第4次：「ききあう」〔3h〕学習内容：自分の曲に速度記号を入れ全員の曲を聴き合う（感想を一覧表に書いて相互交換）。

## 大すき！「くじらぐも」

豊かに想像してできた劇&40冊の本  
1年B組 ぼくたち・わたしたちのくじらぐも物語

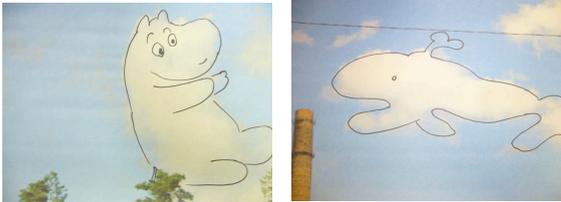


国語科  
1年B組担任  
大谷 真喜子

1年B組の子どもたちが、想像して読み・読んでは想像することに喜びを感じた「くじらぐも」。豊かな想像力を養うちょっとした工夫を紹介します。

### (1)パソコンを活用したスライドショー

「『くじらぐも』（光村図書1年下）の物語は、我がクラスにぴったり。」と感じられる1年生担任の先生は日本各地に大勢いらっしゃるのではないだろうか。わたしも例外ではない。クラスの子どもたちは、物語に登場してくる1年2組の子どもたちに負けなくらい明るく元気で、「くじらぐも」ともきくと大の仲良しになるであろうと想わせてくれる40人であった。だから10月にこの単元に入るのが楽しみで、わたしは夏の頃から空を眺めては、子どもたちが思わず歓声をあげそうな形・次々に想像が広がりそうな形・・・の雲を見つけては、雲の撮影会を行っていた。そう、それは、『くじらぐも』の単元導入を、「いろんな形の雲を見て、豊かに想像して楽しむこと」にしたかったからである。そのためにも、子どもだけでなくわたし自身もワクワクするような“雲のスライドショー”を行いたかったのである。



雲を映し出し、何に見えるかを出し合うのだが、子どもたちは大喜びし、次々に自分の考えを出していく。理由もどんどん述べていく。“雲のスライドショー”でのつかみは想像以上に成果があった。

『くじらぐも』を一読した際にはもう「くじらぐも大好き！」「1Bで、劇をしたい！」「いっぱい想像してお話を書こう！」等々、瞳を輝かせながら子どもたちは意見を出していった。

それを受けて、「劇をしてお家の人に観ていただこう！」という単元の最終目標を設定し、教科書の物語の読みを深める学習を展開していくことにした。魅力ある導入は、子どもたちの学習への意欲を高めることになる。

### (2)単なる掲示物にしない“くじらぐも”



さて、次に紹介したいのは、乗った子どもたちの絵をはずすことのできるオリジナルの布製くじらぐもである。（パネルシアターをヒントに考えた。）

3の場面では、1年2組の子どもたちがくものくじらに飛び乗り、4の場面では一緒に旅をする。そして5の場面では、子どもたちはくじらぐもから降りてお別れをする。本学級の子どもたちは自分自身の絵をくじらぐもに乗せた瞬間、本当にくものくじらに乗った気分になり豊かに想像し語っていくことができた。

研究会での授業は、『楽しかったくじらぐもとの旅を終え、「さようなら。」を言った時の子どもたち・くじらぐもの心の中を考えよう。』をテーマに話し合った。終末に子どもたちが愛唱歌を歌う中、くじらぐもに乗っていた一人一人の絵を外していった。「外さないで。」「もっと乗っていたい。」「さよ

うならくじらぐも。ありがとう。」子どもたちは、この瞬間「さようなら」を実感することとなった。

後日、子どもたちの日記『きらりノート』には、「なみだが出てきました。」「くじらぐものことずうっと大すきです。」「わすれません。」等と思いがたくさん書かれていた。この物語に出会い、この学習をして、1年B組の子どもたちは、何度空を見上げたことだろう。ファンタジーの世界で想像するおもしろさもきっと感じ取ってくれたことだろう。そして暗唱してしまうくらい何度も何度も声に出して本を読む40人の姿には、わたしが大きな喜びをいただいた。

### ～豊かに想像してできた劇&40冊の本～

1B オリジナル劇は保護者の皆様から“感動”という素敵なメッセージをたくさんいただくこととなった。また、発展として取り組んだ一人一人のオリジナル本作りもなかなかの作品に。近い将来、中川季枝子さんのような大人にも子どもにも愛される児童文学作家が誕生するかもしれない。作者中川さんから直筆のお葉書をいただくこともできた「くじらぐも」の取り組みの一端を紹介させていただいた。

ちょっとした工夫で読みが深まる・想像が広がるのである。



## マットあそび

- 夢中に遊びながら逆さ感覚が身に付く場 -



体育科  
2年A組担任  
石本 倫章

逆さ感覚を楽しむ場



肋木倒立



三点倒立



かべ倒立

### 柔軟性と逆さ感覚を楽しむ場

50cmや60cmの間隔をとった場を用意すると、ブリッジのめやすになりやすく、めあて化しやすかった。間隔はガムテープで色分けをするとよい。



ブリッジ

### 側転を練習する場



ゴムを利用して

### 側転を連続して練習する場



長いマットを利用して

これは、1学期の実践である。初発の単元ということもあり、以下のような時間計画を設定した。(これは、ねらい2のめあて1の場である。)

1	2	3	4	6	7	8
はじめ	ねらい1		ねらい2	めあて1 めあて2		おわり

ねらい1は、今もっている力で、いろんな場で活動していくことをねらいとした。ここでは、子どもたちの活動を活発にいくために、たくさんの場を用意した。子供たちが興味・関心の高いのはセーフティマットの場や、かべ倒立の場であった。この時期の子供の実態として、逆さになる感覚あそびをしたいという欲求が強いのだろう。だから、ねらい2の活動も逆さになる感覚を十分楽しませる場の設定をした。

イリンクスを楽しみたいというのは、人が持っている欲求である。低学年の基本の運動では、イリンクスを味わう場の設定をして、学習への意欲付けをしたかった。

### イリンクスを楽しむ場



跳び箱 8段



セーフティマット



イリンクス (illinx) とはフランスの文化人類学者、カイヨワによって分類された「プレイ」の1つのカテゴリーである。

めまい、眩暈の追求を基礎とするあそび。一瞬だけ知覚の安定をくずし、明せきな意識に一種の心地よいパニック(恐怖・ろっばい)をひき起こそうとする試みを内容とするあそびである。

引用参考文献  
「プレイ・スポーツ・体育論」  
竹之下 休蔵 著 大修館書店

### きつい坂マット



### ゆるい坂マット

坂をつかって回り方を上手にしている場

## 教材の選び方を考える

～「電流のはたらきをさぐれ！」の単元より～



理 科  
6年A組担任  
辻本 和孝

どの学習でもそうであるが、単元構成を考える時に重要なものの一つとして「教材選び」が挙げられる。理科学習においては、子どもたちが実際に実験・観察を行っていくわけだから、教材の選び方は、学習展開をも左右するといっているだろう。だからこそ、わたしたちの先輩方は、子どもたちにわかりやすい教材、不思議のたくさんある教材、子どもたちが自分でやってみたくなるような教材などを開発されてきた。わたしたちも、新しい教材を開発しようと日々頭を悩ませているが・・・。

今回は、市販されている**セット教材**（業者が販売している教材）を使用することと、身近な材料を使った**自作教材**を使用することで、そのよい所を比較してみたいと思う。

### 6年生「電流のはたらきをさぐれ！」の単元より

昨年度は**セット教材**を使用し、本年度は**自作教材**を使用して単元を構成したので、それをもとに比較する。

セット教材のよさ	自作教材のよさ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・エナメル線を巻きやすいように、プラスチックのケースがある。</li> <li>・コイルに入れる芯が、鉄とアルミとあり、同じ大きさで条件がそろっている。</li> <li>・すでにきれいにコイルが巻かれているものもある。</li> <li>・最後に作る動くおもちゃがおもしろいし、高度なものもある。</li> <li>・作り方を詳しく書いた説明書がある。</li> <li>・時間短縮が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コイルの巻き数を自由に変えられるし、2つ以上作ることができる。</li> <li>・エナメル線の太さは3種類から選ぶことができる。</li> <li>・鉄芯の太さを変えることができる。</li> <li>・最後に作る動くおもちゃは、子どもたちの創造力をみることができる。</li> <li>・失敗しても何度でも作り直せる。</li> <li>・うまくいったときの喜びは大きい。</li> <li>・コストを低く抑えることができる。</li> </ul>

このようにみると、**セット教材**はクラスみんなが同じ条件で実験できるので、データの信頼性は高くなるだろうし、作り方がわからない子がいても、説明書を見たり同じ材料なので友だちに聞いたりして解決できるというよさもある。また、**自作教材**は、身近な材料で実験するので、授業の時間だけでなく別の機会に別の場所でも作ることができるだろうし、何といたって自分で作って成功したときの喜びが大きいというよさがある。

しかしながら、どちらの場合もよくないところもある。**セット教材**は、箱にプリントされている写真が子どもたちの興味を引き、その写真のことをしてみたい一心で、目的を持たずに試してしまう子がいるところである。**自作教材**は、1から自分でやっていくために、時間がかかることと、友達と条件をそろえることや、使う材料の条件をそろえることが難しいところである。

### 結論として

**セット教材**も**自作教材**もどちらにもよいところとよくないところがあり、一概にどちらがよいとは言えない。わたしとしては、**セット教材**は、その中身を調べてセット教材に他の材料を加えたり、写真入りの箱のないものや、箱があってもその中身だけ事前に取り出したりしておくなどの工夫があれば、使いやすくてよいものだと思う。また、**自作教材**は、オリジナリティーがあり、子どもたちも興味深く取り組めるのでよいと思う。今までに実践例がないものならなおよいのだが・・・。いずれにせよ、授業時間や学習内容を検討して、教材を選ぶ必要があるだろう。

## サッカー

特性を楽しみ，ゴールの感動を味わう



体 育 科  
5 年 A 組担任  
佐々木 和哉

体育科では本年度，「運動の楽しさを真剣に学ぶには～機能的特性と子どもからみた特性の関係をさぐる～」をテーマとして研究に取り組んでいる。ここでは，2 学期に行った「サッカー」の学習の実践をまとめてみた。

### サッカーにおける機能的特性と子どもからみた特性

2 つのチームが入り交じってボールを奪い合い，足を使ったパスやドリブルなどで相手の守りをかわし，ボールをゴールの近くに運び，シュートすることで得点を競い合うことがサッカーの機能的特性である。

自分から進んでボールを蹴ることができたときやドリブルやパスなどでうまくボールを運べたとき，シュートをして得点したときに楽しさを感じる。しかし，足でボールを扱うというサッカーの特性を生活であまり体験していないことから，苦手意識を持っている場合もある。これらが，子どもから見た特性になる。

子どもからみた特性をしっかりと把握することによって，子どもの立場から単元を構成することができ，内容の濃い学習が展開されていくと思う。そこで，重要視したのが「ゴールの感動を味わう」ということである。

### ゴールの感動を味わう

ゴールの感動にも，「自分のゴール」と「仲間のゴール」がある。

本学習でも，ゴールをした子どもたちは皆一様に喜んでいて。特に，苦手意識を持っていた子どもの感動は大きく，晴れ晴れとした顔をしていた。それによって，次も自分で得点したいという願いをもつようになり，積極的に活動していた。また，自分だけでなくチームの仲間がゴールしたときも，個人だけでなくチーム全体として感動を味わっていった。

本学習では，できるだけ多くの子どもがゴールの感動を味わうことができるようにと，試合での人数を少なくした。それによって，ボールをさわる回数が増え，ゴールにもつながった。また，全員が攻撃できるようにという理由から，ゴールキーパーをおかなかった。このことから，チーム全員にゴールの可能性が出てき，積極的にシュートをしていた。



子ども一人一人がサッカーの特性にふれながら，ボールを蹴ったり，ドリブルをしたり，パスを出したり，もらったりすることを楽しむことを第一歩として，シュートすることの楽しさやゴールの感動を味わっていた。個人だけではなく，チームとして，この感動を味わうために，みんなといっしょに励まし合いながら練習をしていた。ここでは，練習の仕方だけでなく，チームの戦術や作戦，試合内容も考えていた。それによって，チームとしての集団意識をより一層高めることができた。この高まりをこれからの学習にも生かされるようにと考えている。

## 学校にある形を見つけよう

～ 単元「形をしらべよう」から～



算 数 科  
3年B組担任  
宇田 智津

### デジタルカメラで集める

本単元では、まず、折り紙を切ったり組み合わせたりしながら長方形や正方形・直角三角形の性質について学習しました。そうして、学習を深めるため、『学校の中にある長方形・正方形・直角三角形を見つけよう』の課題を設定しました。例えば、ロッカ - や窓ガラスは長方形です。このように、「教室の中」であれば、みんなでその形に触れ、直角であるかどうかを確認することができます。しかし、「学校の中」と範囲を広げると1つ1つの形をみんなで確認することができません。そこでデジタルカメラを活用し、見つけて撮影してきたもので学習を進めていくことにしました。子どもたちは6～7人のグループになり、デジタルカメラと三角定規を持って学校の中にある長方形・正方形・



直角三角形を見つけに行きました。該当する形を見つけると確認。角が直角になっているかどうか直接測れるものは三角定規で調べ、測れないものはデジタルカメラでなるべく真正面から撮影しました。その後、印刷した紙に三角定規を当てて形を確認していました。直接測ることができないものでも、デジタルカメラを

活用することで写真を撮ったものを印刷してから確認することができたり、子どもたちが見つけたものをクラスで説明しにくい場合クラスで共有することができたりしました。

### 身近なものを教材として

右の写真をご覧ください。これは一例ですが、どこに長方形・正方形・直角三角形があるかわかりますか？



子どもたちは学校の中にある形を探してみても、「こんなにたくさんの正方形がある。」「前から見ると分からないけれど、横から見ると直角三角形になっているよ。」など、普段何気なく目にしている景色から形を見つけていました。実生活と算数の学習を関連させることにより、子どもたちの身のまわりには長方形・正方形・直角三角形の形がたくさん使われていることを知るいい機会になりました。

学習後に行った校外学習では歩きながら形探しをしたり、登下校中に見つけた形を教えあったり、子どもたちはいろんな場所の形に注目していました。

視点を考えてみるといろいろなところに算数があり、身近なものを教材として楽しく学習することができると考えています。

#### From Editors

今年度の実践内容と成果は、2006年3月発行予定の《和歌山大学教育学部附属小学校研究紀要第30集》に詳しく掲載されています。なお、この広報誌は、ホームページのカラー版でもご覧になれます。

#### 和歌山大学教育学部附属小学校

〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号

TEL (073) 422-6105

FAX (073) 436-6470

URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>

Mail [fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp)